

SYAKAIKA

受賞作品 | 社会科部門

〈総評〉

新型コロナウイルスの影響により前年は中止となったため、1年ぶりの再開でしたが、社会科部門では例年と変わらない数の応募がありました。アンケート調査を行ったり、インタビューをしたりと積極的に行動して調査された作品が多く、色々と制限がある中研究に取り組んでくださったこと、とても嬉しく感じました。

テーマとしても例年多くみられる自分の生活にある身近なものを研究したり、体験したことを掘り下げている作品のほかに、東京オリンピックを題材にしたり、コロナ禍を過ごす中で感じたことを調査するなど社会問題に取り組む作品も散見されました。

また、見せ方を工夫した作品も多く、皆さんが実際に見たり、体験した内容を写真やイラスト、地図を使用してわかりやすくまとめられておりとても読み応えがありました。

毎年の研究を通して皆さんは、確実に力をつけています。来年も皆さんの気づき、行動力を活かした素敵な作品が届くことを期待しています。



文部科学大臣賞

大江町に住んでみました。
山形県 鶴岡市立朝陽第三小学校 4年
上野 龍明



子どもの文化・教育研究所 理事長賞

実際の気象データから作曲・演奏した
ヴァイオリン四重奏「雨の歌」による
地域防災活動支援
千葉県 千葉大学教育学部附属中学校 ほか 3年
横内 敬文 ほか4名



日本社会科教育学会会長賞

昔の暮らしを今に活かす
日本のエネルギー問題について
群馬県 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 3年
井村 菜々恵



中央出版株式会社社長賞

心のバリアフリーを目指して パート2
～目の見えない方々とつながる～
東京都 白百合学園小学校 5年
菊池 真生



優秀賞

海の生きもの達をごみから救うために、
わたしたちができること
愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 4年
佐藤 朝

口蹄疫からぼくが学んだこと
宮崎県 宮崎市立恒久小学校 5年
山中 航太郎

東雲1丁目交差点の自由研究！
東京都 白百合学園小学校 4年
藤巻 愛麻

文部科学大臣賞

大江町に住んでみました。

上野 龍明 | 山形県 鶴岡市立朝陽第三小学校 4年



〈選考理由〉

「山形県35市町村PR隊」というテーマに取り組んだのをきっかけに、同じ山形県にある大江町をPRしようとした意欲的な研究です。自分の住んでいる市町村を調べるだけでも大変なのに、よその町の実態を調べその魅力を探ろうとした探求心と行動力には驚かされます。調査方法もインターネットや資料で調べるだけでなくアンケートや現地でのインタビューなど多彩で、その真摯な研究姿勢に感銘を受けます。

ただ調べるだけではなくツアーを企画し実行する行動力も素晴らしいです。これはこれからの学習の大きな力になります。これからもその探求心と行動力でさまざまなことに挑戦してってください。

実際の気象データから作曲・演奏した ヴァイオリン四重奏「雨の歌」による 地域防災活動支援

横内 敬文 | 千葉県 千葉大学教育学部附属中学校 3年

岡田 琉 | 千葉県 成田市立公津の杜中学校 2年

横内敬子 | 千葉県 佐倉市立志津小学校 6年

村山皓大 | 千葉県 印西市立小倉台小学校 6年

高橋 伶爾 | 千葉県 成田市立加良部小学校 3年



〈選考理由〉

令和元年に千葉県を襲った台風21号の気象データを音楽に転換し、防災意識を高めるためにバイオリンのグループが演奏を行った活動の記録です。台風や地震・津波などによる被災地に訪問演奏する事例はたくさんありますが、自ら「雨の歌」を作曲して演奏するという発想と行動力に完全に意表を突かれました。

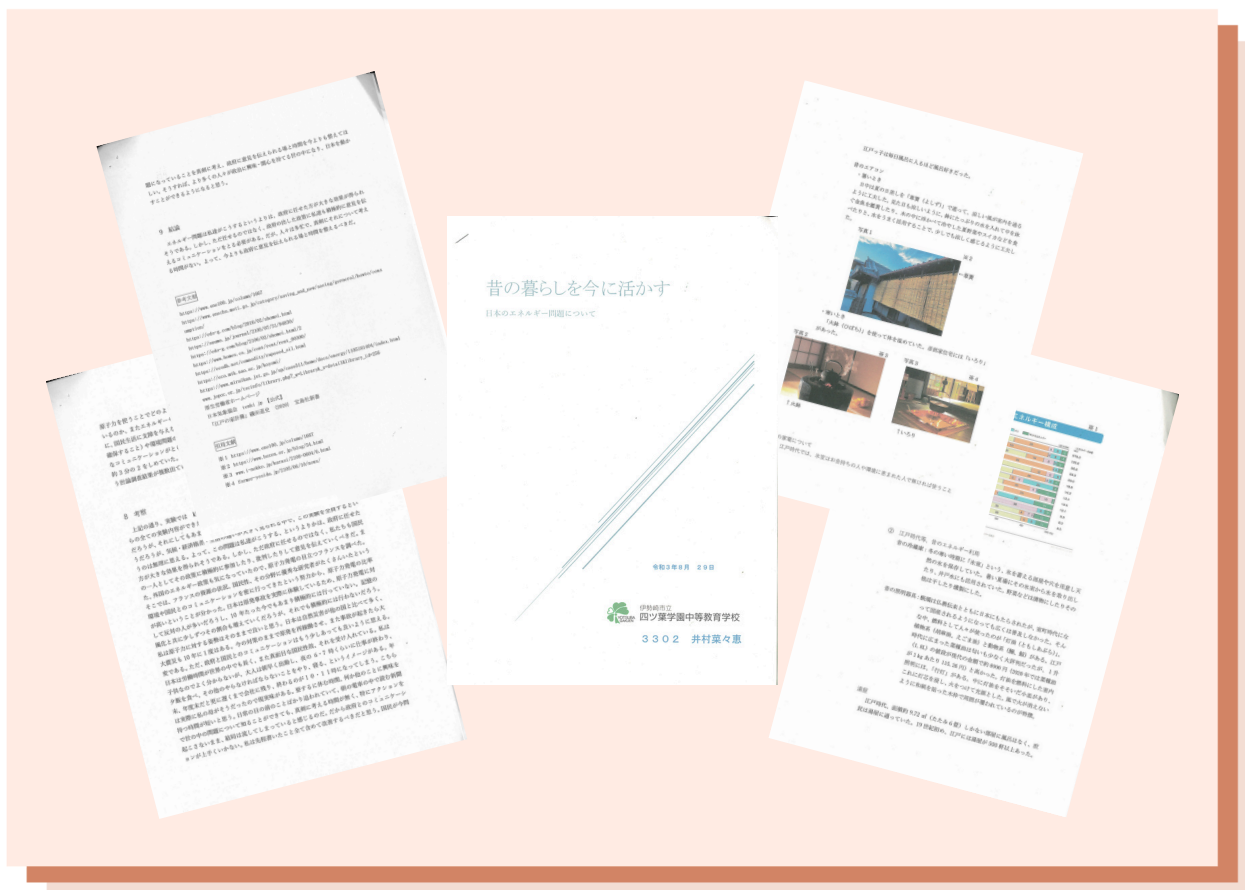
このような普通では考えつかないことに着眼し実行したことに拍手を送ります。

災害の恐ろしさを音楽によって伝えようとする思いが良く伝わってきました。地球温暖化による気候変動と災害が問題となっている中、この作品の持つ意義は大きいと言えます。この経験が皆さんの将来にどのようなにつながっていくか楽しみにしています。

日本社会科教育学会 会長賞

昔の暮らしを今に活かす 日本のエネルギー問題について

井村 菜々恵 | 群馬県 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 3年



〈選考理由〉

環境問題についてエネルギーの観点から使用量を減らす事が問題解決に繋がると考え、昔の生活様式に着目し、調査を行い環境問題の解決方法を考察した作品です。エネルギー利用について現代と江戸時代とを比較し、現代でも生かせるエネルギー節約方法を選定して実際に実行する姿勢と、結果を基に問題解決に向けてどのように行動するべきかとまとめられている点が素晴らしいと感じました。解決方法を考察する為に海外の事例を参考にするなど、様々な観点から考察を導き出そうとしている点も高評価ポイントです。環境問題についてどのように向き合っていくべきか改めて考えさせられる作品でした。

中央出版株式会社 社長賞

心のバリアフリーを目指して パート2 ～目の見えない方々とつながる～

菊池 真生 | 東京都 白百合学園小学校 5年



〈選考理由〉

前回に引き続き、「心のバリアフリー」について調査を行った真生さん。今年は知ることからもう一步理解を深めるため、前回の調査で目の見えない方々も目の見える人たちと同じような楽しみや趣味を持っていると知った真生さんは、その中でもスポーツに着目して調査しています。実際に障がい者スポーツセンターや福祉施設に行き、さまざまなスポーツを体験したり、パラスポーツ選手にインタビューするなど理解を深めようとする意欲がとても素晴らしいです。体験しなければわからないパラスポーツの特徴や難しさが丁寧にまとめられています。

また「感じたことや見聞きしたことを人々に広めていくことが心のバリアフリー活動だ」という思いのもと、インタビューの内容をなるべくそのままの言葉で残しているところも、真生さんの目の見えない方々に対する真摯な思いが込められていると思います。

これからも、「心のバリアフリー活動」を続けていってください。